



○ 夢中

朝日新聞の記事（7月11日付け）からの引用です。また、印象に残る内容がありました。論語の表現には私は今ひとつしっくりこない部分もありましたが、“なじみの理髪店主”がつぶやいた「努力と夢中」はしっかりと私の中に伝わりました。

かつて私はインタビューの場面でスポーツ選手が「楽しんできたいと思います。」と述べているのを聞いて少々違和感がありました。「絶対優勝したいと思います。」というぐらいの意気込みで言ってほしいと思ったからです。プレッシャーや緊張感を自らほぐすために「楽しむ」ということばを遣っているのかなと思いました。しかし「楽しむ」ということを「夢中になる」ととらえてみるといいので

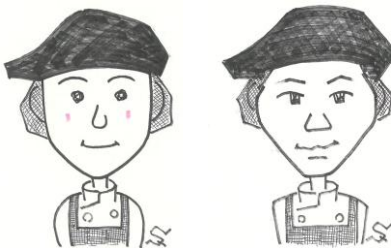
すね。大谷選手がまさにそうなのではないかと思います。彼の野球に対する姿勢はいつまでも“野球小僧”のようだと誰かが言っていたように思います。彼はいつもどんな場面でも夢中になっているのだろうと私は理解することができました。私の中では「夢中」ということばがしばらくブームになっていきそうです。私自身夢中になれるモノがあるかと自問してみました。一応あります。

○ 自校自賛



写真はイメージです

KC校のオープンキャンパスではジェラートを作りました。先日親子連れとすれ違ったとき子どもの一人が「暑〜い！早くアイスクリームが食べたあ〜い。」とっていました。私は「ごもっとも！」と心の中で言っていました。今回の内容はジェラートでした。攪拌（かくはん）作業では機械を使わずにあえて手で行っていたので大変だったと思いますが、苦労した分食するときにはより爽やかに美味しく感じたことでしょう。学生のお手伝いは製菓衛生師科のKさん、Tさん、Nさんです。似顔絵はTさんとNさんです。



折々のことば 鷲田 清一 3441

好之者不如樂之者 孔子

「これを好む者はこれを樂しむ者に如かず」。「好むというのは樂しむのには及ばない」の謂。ある対象に執着する人は、それと一体になれる人に所詮敵わないということ。『論語』（金谷治訳注）雍也第六から。なじみの理髪店主がふと呟いた「努力は夢中に勝てへんて、よう言いますね」で思い出した。夢中であるのと何と競うこともない、だから無敵だと説明してくれた。

2025・7・11